



2018-19年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン

Weekly Report Niigata



インスピレーションになろう

国際ロータリー

2018-19 年度テーマ

インスピレーションになろう



2018～19 年度
新潟ロータリークラブ会長

若槻 良宏

新潟 RC 8月第 2 例会 (2018.8.21) No.3245

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 若槻 良宏会長挨拶

皆様こんにちは。お盆休みはどのように過ごされましたでしょうか。本日は、休み明けということで、プログラムが盛りだくさんのため、会長挨拶を行う時間が全くとれません。準備をさぼっていたわけではありませんので(笑)、ご了承ください。挨拶に代えて、週報に原稿を掲載させていただきます。

<週報原稿用の挨拶>

今年度の目標として、「He profits most who serves best」の理念を再確認し、会員の事業に役立つ職業奉仕プロジェクトを行いたい旨掲げました。

ロータリークラブの職業奉仕は難しいと言われることがあります。私も、五大奉仕のうちの「職業奉仕」を十分に理解できません。「職業」と「奉仕」がうまく結びつかないのです。「職業」とはお金を稼ぐ行為であり、他方で「奉仕」とは見返りを求めない行為です。これを弁護士業務にあてはめると、「奉仕」とは、手弁当で無料の法律相談や人権擁護活動をするということになります。そうであれば、通常の報酬を伴う弁護士業務は、職業奉仕とはいえないのでしょうか。職業奉仕は、ロータリーの特徴であり、ロータリーのロータリーである所以といわれていますが、その正体が良くわからないのです。

先般、副会長の小山楯夫さんから、一冊の本「シェルドンの森を巡る旅」(田中毅著、発行:源流会の会)を頂戴しました。この本は、「経営学に基づく奉仕理念」という視点から、ロータリークラブの職業奉仕の歴史を整理したもので、職業奉仕を理解するためにとても参考になりました。

ロータリークラブは、1905年2月23日、ポール・ハリスが、親睦を目的として設立した団体です。当初は、親睦や会員同士の物質的相互扶を重視しており、そこに職業奉仕という考え方はなかったようです。その後1908年に、アーサー・フレデリック・シェルドン(以下「シェルドン」といいます。)が、シカゴ・ロータリークラブに入会し、物質的相互扶助に代わり、経営学に基づく奉仕理念を提唱しました。シェルドンは、従来の会員同士の物質的相互扶助から、継続的に利益をもたらす顧客を確保することによって事業を発展させるという、経営学に基づいた奉仕

理念に転換したのです。シェルドンは、スピーチにおいて、有名な「He profits most who serves his fellows best」を披露し、他人に対してサービスすることが、事業を成功させる方法であることを、経営学の視点から力説したのです。これは当時としては画期的な考え方であり、この考え方を背景にロータリークラブは全米に発展していったとのことでした。

ロータリークラブの理念、職業奉仕の理念の原型はここにあります。その後、ロータリークラブには、「Service Above Self」を標榜とする社会奉仕派が台頭し、現在の主流を構成しています。社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕が重要であることは言うまでもありませんが、ロータリークラブの特徴が職業奉仕にあるとすると、シェルドンの唱えた奉仕理念にもフォーカスをあてる必要があるのではないかと思います。

シェルドンの唱えた「profits」とは経済的・物質的利益であり、観念的利益(心の報酬)ではありませんでした。「He profits most who serves his fellows best」は、自社の利益を最大にするための経営学の理論であり、人間に対するサービス学です。そのうえで、シェルドンは、1点目として、行き過ぎた金儲け主義に警鐘を鳴らし、自分の儲けのみを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図をもって事業を営むことが大切であり、顧客に優れたサービスを提供することが、持続性を保ち、利益を累進的に与えてくれる顧客を獲得するための唯一の方法であると説きました。また、シェルドンは、2点目として、利益の再配分の重要性、すなわち、事業主が利益を独占するのではなく、顧客、従業員や取引業者、下請業者等に適正に再分配することによって、事業は持続的に発展していくことを説いたのです。

これらの考え方は、現代では当たり前の話のように思われるのですが、昨今、頻発している企業不祥事に鑑みれば、再確認される意義があるのではないかと思います。現代風にいいますと、コンプライアンスや企業倫理を保つことが、事業を持続的に発展させていくためには重要ということになるのかもしれない。

今年度は、職業奉仕委員会の石橋正利委員長が中心になって様々な企画を準備しております。これから職業奉仕委員会の活動が本格化していきますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

(3) 新会員紹介



NTTドコモ
新潟支店長 今井聡君
ご紹介 東方 幸雄君
所属委員会 青少年交換委員

皆様、こんにちは。6月19日に竹内の後任として着任いたしました、株式会社ドコモCS新潟支店の今井聡と申します。この度は、歴史と伝統のある新潟ロータリークラブへの入会をお認めいただきまして、誠にありがとうございます。昭和44年生まれの49歳、出身は東京都杉並区です。家族は妻と子供2人で、単身赴任で来ました。私自身2度目の単身赴任となります。過去には、北海道札幌市、栃木県宇都宮市、群馬県前橋市、北海道帯広市での勤務経験がありますが、新潟での勤務は初めてとなります。神社・仏閣を巡るのが好きで、新潟には神社・仏閣が非常に多いとお聞きしていますので、休みの日の神社・仏閣巡りを楽しみにしています。2009年から帯広で勤務していた時に、帯広ロータリークラブに入会しており、今回が2度目のロータリアンとなります。これから新潟のために、精一杯活動してまいりますので、皆様、よろしくお願いします。

(4) ロータリーの友紹介(坂本雑誌副委員長)

(5) 地区奨学生 和田 直さん帰国報告



(6) 小林 建社会奉仕委員長報告

8月24日16:30 Sea Point に集合頂き海岸清掃を行います。台風の予報がありますので中止の判断をした場合は前日に連絡差し上げます。小雨決行といたします。

(7) ニコニコボックス紹介(若杉 武委員長)

・塚田正幸君 今日の卓話の講師「みらいず works」代表の小見まいこさんは7月末に弊社にいられて中学高校生向けキャリア教育の話を熱心にされました。温厚そうですが家事、育児をやりながら東奔西走、仕事をこなすスーパーウーマンです。小見さんが卓話の講師として来られた事を心から歓迎してニコニコします。

・堀 盛富君 本日、夏の高校野球決勝があります。全農は母校であり平成最後の百姓一揆を見せてもらいたい。応援よろしくお願いします。

・佐藤 紳一君 藤井さん、高橋 秀松さん、担ぎありがとうございます。小木さんそれと浪江の松本さん応援ありがとうございます。この分で行きますと、あと10年は「OK」です。

(8) 幹事報告(大澤 強)

・例会後新会員オリエンテーション4階「雪の間」で開催致します。

(9) 卓話「これからの新潟の担い手を育てるために、 できること、求められていることとは」

NPO 法人みらいず works 代表理事 小見まいこ氏

学びクリエイター 角野 仁美氏



(10) 8月21日例会の出席率 81.82 %

会員数 91名(出席免除会員 7名)

出席者 72名(出席免除会員 4名を含む)

(2週間前メーク後 78.16 %)

9月4日の例会予定

会員スピーチ

㈱電通東日本新潟支社支社長 安野克彦君

㈱ユアテック新潟支社常務取締役支社長 中山哲克君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>